

岡久佳奈<sup>1</sup>・岡久雄二<sup>1</sup>：佐渡島におけるニホンイノシシ死亡漂着の増加について

Kana OKAHISA<sup>1</sup> and Yuji OKAHISA<sup>1</sup> : Increase in the number of dead Japanese wild boars *Sus scrofa leucomystax* washed ashore on Sado Island.

ニホンイノシシ *Sus scrofa leucomystax* は、日本の東北地域を除いた本州、四国、九州に分布する陸生哺乳類である（環境省自然環境局生物多様性センター 2004；關ほか 2015）。本種は佐渡島には生息していないものの（佐渡市 2012）、近年になり死骸が海岸に漂着する事例が増えている。

瀬戸内海や南西諸島、長崎県の島嶼部では、本種生体が海を渡って離島に分散し、地域農業や自然景観に被害を与える事例などが報告されている（平田 2014；高橋 2015；中本・遠藤 2016；武山 2016, 2018）。本稿では、佐渡島の海岸における本種の漂着記録を報告し、生体漂着や定着の可能性についても検討する。

漂着記録

佐渡市が保管する2015年4月から2020年4月までの動物漂着記録から本種に関するものを抽出し、担当職員に漂着時の現場状況の聞き取り調査を実施した。その結果、5件の漂着事例が確認され、いずれも死亡漂着であった（表1）。漂着は2016年が1件、2019年が2件、2020年が2件であった。季節は11月から1月までの冬期漂着が4件、4月が1件で、漂着地点は佐渡島西側の海岸に集中していた（図1）。写真から推定した頭胴長は約80～125cmであり、雌雄の両方を含むと考えられた（図2～3）。これらの漂着死体は一部個体にCSF（豚熱）の検査を実施したのち、海岸に埋却された。

表1 佐渡島におけるニホンイノシシの漂着記録。\*はCSF（豚熱）の検査結果を示す。

|      | 事例①             | 事例②            | 事例③                    | 事例④                    | 事例⑤           |
|------|-----------------|----------------|------------------------|------------------------|---------------|
| 年月日  | 2016年<br>12月26日 | 2019年<br>11月1日 | 2019年<br>12月6日         | 2020年<br>1月7日          | 2020年<br>4月7日 |
| 場所   | 佐渡市<br>相川高瀬     | 佐渡市<br>沢崎      | 佐渡市<br>羽茂亀脇            | 佐渡市<br>相川高瀬            | 佐渡市<br>羽茂村山   |
| 生死   | 死亡              | 死亡             | 死亡                     | 死亡                     | 死亡            |
| 雌雄   | 不明              | オス             | メス                     | メス                     | メス            |
| 頭胴長  | 約100cm          | 約80cm          | 約125cm                 | 不明                     | 約125cm        |
| 外貌   | 外傷なし            | 外傷なし           | 頸部・臀部の<br>被毛剥離<br>(腐敗) | 頭部欠損<br>腹部被毛剥離<br>(腐敗) | 頭部・腹部<br>白骨化  |
| 検査等  | 無               | 無              | 無                      | 無                      | 有 (CSF 陰性*)   |
| 処理方法 | 埋却              | 埋却             | 埋却                     | 埋却                     | 埋却            |

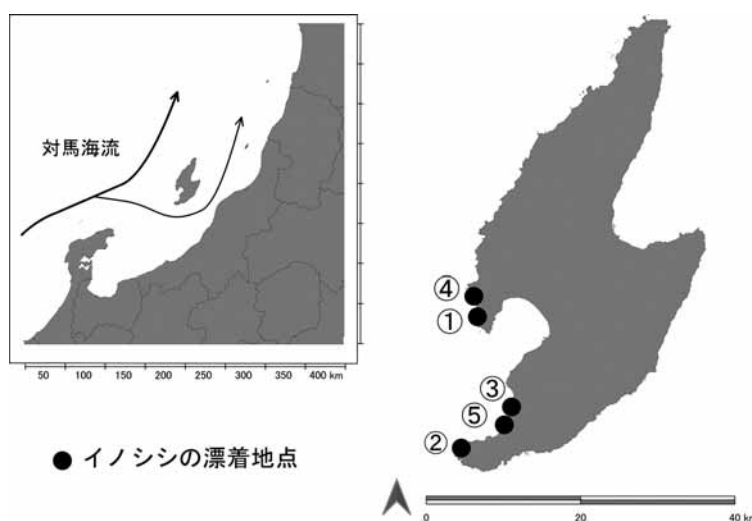


図1 ニホンイノシシの漂着地点と佐渡島周辺の海流（枠内）



図2 漂着個体（漂着日2019年11月1日）



図3 漂着個体（漂着日2020年1月7日）

## 考察

5年間の漂着事例5件のうち4件が2019年から2020年にかけての発生であり、佐渡島における本種の漂着が増加していることが示唆される。また漂着地点が島の西部に集中しており、佐渡島周辺の海流の方向から新潟県南部、富山県、石川県能登半島由来の個体が漂着した可能性が高いと思われる。これらの本州北陸地域は環境省の行った分布状況調査で2003年以降に分布が急拡大した地域である（環境省ホームページ）。また狩猟頭数も2003年から2016年までの13年間に新潟県で20倍、富山県で18倍、石川県で7倍と大幅に増加している（環境省ホームページ）。これらの地域での急激な生息密度の上昇が、佐渡への死亡漂着に何らかの影響を与えているのかもしれない。

今後、もし2019年から2020年にかけての状況が続くようであれば懸念されるのは生体の漂着である。本種が従来の生息地から島嶼部へ海を渡って分散した事例は西日本でよく確認されている。たとえば、長崎県五島列島（中本・遠藤 2016）や愛媛県忽那諸島（武山 2016）では、密度効果によって本種が近隣の島へ分散した。あるいは鹿児島県奄美群島では、狩猟圧の高まりによって島の縁に追いやられた個体が海を泳いで近くの島に上陸し、その島に定着したことが知られる（高橋 2015）。これらの事例はいずれも陸地と陸地との直線距離が10km未満の地域で発生しているのに対して、佐渡島と最も近い本種の生息地（新潟市角田浜付近）とは約35kmもあり、西日本の事例と比べるとはるかに遠い。たとえ生体が海を渡り始めたとしても、生きて佐渡島に到達する可能性は今のところ低いといえる。ただし、万が一にも生体が上陸した場合は容易に島に定着し、繁殖を開始すると考えられる。高齢化、少人口化が進む佐渡島において、島の基幹産業である農業を維持していくためには、本種の漂着事例が増加していることに注目し、早くからその対策を講じておくことが重要となろう。

## 謝辞

情報提供をいただいた佐渡市農林水産課、農業政策課の皆様および新潟県中央家畜保健衛生所佐渡支所の皆様に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 平田滋樹. 2014. 長崎県の島嶼におけるイノシシ管理の現状. *Wildlife and Human Society* 1(2): 79-83.  
環境省ホームページ. 改正鳥獣法に基づく指定管理鳥獣捕獲等事業の推進に向けたニホンジカ及びイノシシの生息状況等緊急調査事業の結果について. (<https://www.env.go.jp/press/100922.html>) (2020年9月12日閲覧)  
環境省ホームページ. 鳥獣関係統計. (<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs2.html>) (2020年9月12日閲覧)  
環境省自然環境局生物多様性センター. 2004. 第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 哺乳類分布調査報告書. 225pp., 環境省, 東京.  
中本敦・遠藤晃. 2016. 長崎県五島列島野崎島へのイノシシの侵入とその後の分布拡大について. *哺乳類科学* 56(2): 207-213.  
佐渡市. 2012. 佐渡島環境大全. 223pp., 佐渡市, 新潟.  
關義和・江成広斗・小寺祐二・辻大和. 2015. 野生動物管理のためのフィールド調査法 哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで. 436pp., 京都大学学術出版会, 京都.  
高橋春成. 2015. 南西諸島の海を泳ぐイノシシ. *総合研究所所報* 23: 1-12.  
武山絵美. 2016. 瀬戸内海における海を越えたイノシシの生息拡大プロセス—愛媛県松山市全有人島を対象とした聞き取り調査に基づく考察—. *農村計画学会誌* 35: 33-42.  
武山絵美. 2018. イノシシが新たに侵入した島嶼における被害拡大と農村意識—愛媛県松山市興居島・釣島を対象として—. *農村計画学会誌* 37: 183-189.

(Received Mar. 1, 2021; accepted May 5, 2021)

<sup>1</sup> 〒952-0103 新潟県佐渡市新穂潟上1101

<sup>1</sup> 1101 Niibokatagami, Sado-City, Niigata 952-0103 Japan